

千葉市長記者発表全文

統合型リゾート（IR）に対する千葉市の方針について

千葉市は、「グローバルMICE都市」として、積極的に国際会議や展示会等の誘致に取り組んできました。今後も本市がグローバルレベルのMICE誘致力を有する都市であり続けることは、本市や本市を核とする圏域経済を維持・発展させていくために必須の要素であると考えております。

その有力な方策の一つであるIRについて、市議会や県議会における推進決議や推進議員連盟の設立、さらに、昨年5月には地元企業の有志の皆様からIRの推進に向けた具体的な事業提案がなされたこともあり、本市においてIRを導入するかしないかを判断するに必要となる情報収集のため、民間事業者へ本市におけるIRの事業性などについての情報提供依頼、いわゆるRFIを7月から実施するなど、これまで調査・検討を重ねて参りました。

RFIでは、8者より情報提供いただいたところではありますが、そのいずれも幕張新都心を想定し、建設投資額や年間訪問者数、カジノ事業売りに伴う納付金などの経済効果が示され、幕張新都心でのIRの実現性が示唆された提案となっております。

幕張新都心は、羽田空港や成田空港の中間に位置しており、都心からもアクセス性が優れ、幕張新都心の中核的施設である幕張メッセは、その施設規模が単一展示スペースとしては日本最大であり、認知度が最も高いといった面が評価されているとともに、海辺を臨み、まとまった公有地がある幕張新都心こそIRとの親和性は高いという評価をいただいたところであります。

一方、R F Iにおいて提示された課題としては、開業後30周年を迎えた幕張メッセの老朽化や、国際会議場やレセプション会場の不足、周辺にハイエンドのホテルが存在せず、アフターコンベンションの機能が不足しているといった点が挙げられておりました。

そのため、I R整備法で求められる展示場や国際会議場、魅力増進施設、ハイエンドな宿泊施設といったものは、本市が展示会や国際会議の誘致に向けた取り組みを強化していく有効な手法であり、これら多くの施設の充実に向けた大規模な投資を誘引していくためにも、I Rという手法は非常に効果があるものと考えております。

本市がI Rについてこのような検討を行ってきた中で、昨年秋以降の本市の置かれた状況に大きく影響を与えたことがいくつかあります。

まず、昨年9月から10月にかけて千葉県全体を襲った史上最大級の台風や大雨等により、市内・県内各地で多くの被災者が発生し、家屋等大きな被害が発生するという状況がありました。

次に、11月19日には、国から認定申請期間に関するスケジュール案が示されましたが、本市の想定より短いスケジュールとなっており、これまで国の動きを見据えながら調査検討を行っておりましたが、昨年の災害の影響もあり、今回のスケジュール案では、関係者との調整や法に定める手続きに十分な時間をとることができないものと判断いたしました。

私は、I Rについて、これまで誘致ありき、反対ありきではないスタンスから検討を重ねて参りましたが、いま申し上げたとおり、様々な観点から総合的に判断し、今回の国から示されているスケジュールでのI Rの誘致は行わないという結論に至りました。

幕張新都心の今後については、どのように機能強化や更新を図るのか、そしてこれからも本市及びその圏域、さらには県内経済全体をけん引していくためにどのように成長させていくかといった将来のあり方を、これまで幕張新都心を手掛けてきた千葉県とも手を携えながら、本市が中心となって検討していくことになるものと考えており、その中において、I Rも含めた有効な戦略について研究していきたいと考えております。